

The National Conference of Community Cinema 2012 in Okinawa

2012年9月8日(土)・9日(日)

会場:

■ 桜坂劇場

住所 沖縄県那覇市牧志 3-6-10

Tel: 098-860-9555 HP: <http://www.sakura-zaka.com/>

(添付会場案内図参照)

参加費:

会議 2,000 円 (1日のみ参加の場合は 1000 円)

- ※ 9月8日、9日共に参加可。一部のみの参加も参加費は同じです。
- ※ コミュニティシネマセンター会員は会議のみ無料です。(1団体1名)
- ※ 定員 200 名

レセプション 3,000 円

主催：桜坂劇場 / 一般社団法人コミュニティシネマセンター

文化庁「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」(9月9日のみ)

申し込み締め切り 8月31日(金)

参加を希望される方は、別紙の申込用紙にご記入の上、

8月31日(金)までにファクシミリ(FAX:03-3461-0760)にてご送付ください。

ご出席申し込みに対しては、折り返し確認書をメールまたはFAXにてお送り致します。

- ※ 内容(出演者等)は変更になる場合がございます。ご了承ください。
- ※ 定員を越えた場合、お申込を受けられない場合がございます。ご了承ください。

お問い合わせ

コミュニティシネマセンター TEL:050-3535-1573 FAX:03-3461-0760 <http://www.jc3.jp>

魅力的なまち、 居心地のいい場所⇨コミュニティシネマ

今回のコミュニティシネマ会議は、ついに沖縄・那覇での開催が実現します！
那覇市の映画館「桜坂劇場」。映画監督の中江裕司さんらが、閉館した映画館をリニューアルして、2005年7月に開館した劇場です。3スクリーンの映画館に、壺屋焼や紅型といった伝統工芸品や本、雑貨など沖縄の“いいもの”をスタッフが選んだセレクト・ショップ「ふくら舎」、充実したメニューが楽しめるカフェ「さんご座キッチン」を併設し、年間100以上の講座を開講する「桜坂市民大学」を運営するなど、桜坂劇場は、常に注目を集めてきました。

日本復帰40年、基地問題は厳然としてあり、オスプレイ配備反対運動で騒然とする沖縄。

中心市街地の空洞化、若年世代の流出、高齢化や過疎化の進行、等々…多くの地方都市が抱える問題。那覇市も例外ではない…かもしれない、でも、なぜか、那覇は元気にみえる。人をひきつけてやまない魅力的なまち・那覇。

那覇の映画館、桜坂劇場は元気そうにみえる。

今年のコミュニティシネマ会議は、那覇の桜坂劇場で、様々な側面から、これからのコミュニティシネマについて考えます。

着々と進行する上映（劇場）のデジタル化の中で、35ミリの上映環境をどうするのか、徹底的にディスカッションします。また、この数年、テーマとしてきた若い観客開拓プログラムも継続的に取り上げます。1年半を経過した東日本大震災被災地での上映活動「シネマエール東北」の報告もあります。

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。



「全国コミュニティシネマ会議」

この会議は、さまざまな場で“映画を見せること”を行っている人々の情報交換と研究討議の場として、1996年から毎年会場を変えながら開催しており、今年の開催で17回目となります。ミニシアターを中心とした興行関係者や、フィルム・アーカイブやライブラリーなど公立の映画専門施設（シネマテーク）関係者、映画祭関係者、公共ホール・美術館・図書館の映像担当者、シネクラブの主催者、自主上映団体、独立系配給会社等々、例年150人をこえる参加者を得ています。映画の上映に興味のある方ならどなたでも自由にご参加いただけます。

全国コミュニティシネマ会議 2012 イン 那覇

The National Conference of Community Cinemas 2012 in Okinawa

※コミュニティシネマ会議の開催に先立ち、9月8日(土)午前中にワークショップ「自館の広報戦略を再検証する!」を開講します。

こちらへのご参加は、コミュニティシネマセンター会員限定・定員30名・申込順とさせていただきます。

詳細につきましては添付資料をご参照ください。

プログラム ※ 出演者等は変更になる場合がございます。ご了承ください。

9月8日[土] 会場:桜坂劇場

■ 14:00

主催者挨拶

コミュニティシネマセンター活動報告

■ 14:15~16:30 プレゼンテーションとディスカッション

魅力的なまち、居心地のよい場所をコミュニティシネマ

中心市街地の空洞化、若年世代の流出、高齢化や過疎化の進行、等々…全国各地の地方都市が共通の課題を抱えている。那覇市も例外ではない…かもしれないが、なぜか、那覇は元気にみえる。

全国の映画館が疲弊する中、桜坂劇場だけは元気そうにみえる。

人をひきつけてやまない魅力的なまち・那覇。桜坂劇場の周辺にいる、那覇市の魅力のみなもとともいえる人たちが登場、自らの活動を語るとともに、桜坂劇場についても熱く語ります。

14:15~15:15 プレゼンテーション

魅力的なまち・那覇をかたちづくる人たち~桜坂劇場のまわりにいる人たち

宮里千里さん

「シマ豆腐紀行 遥かなるくおきなわ豆腐>ロード」、「沖縄 時間がゆったり流れる島」、「ウーマク! オキナワ的わんぱく時代」等々の著者である宮里千里さんは、那覇市の上下水道局長でもある。そして、この夏、公開される映画「栄町市場 歌えまちグラー」の舞台である栄町に住み、この町に深く関わっている。

まちなか研究所わくわく (NPO) 宮道喜一さん <http://www.machiwaku.com/> ※予定

みんなで決めてみんながつくるまちづくり、すべての人々が、自ら暮らすまちを想い、考え、納得してつくっていきけるような市民社会の実現を目指して活動する「まちなか研究所わくわく」は、桜坂劇場にほど近い壺屋に事務所がある。市民自身がまちづくりに関わること、そのための様々な活動を、那覇はもとより、糸満市など沖縄各地で展開している。

ボーダーインク 新城和博さん

「ボーダーインクは、1990年に那覇市で創立以来、シマからの視点で地元・沖縄に関する本を中心に多数出版してきました。これから『時代とシンクロした超ローカル』な(沖縄県産本)づくりを目指します」とウェブサイトにある通り、数多くの沖縄関係本を出版している。その出版書籍の量と質に圧倒される。桜坂劇場のショップにもボーダーインクの書籍が多数置かれている。

若狭公民館 宮城 潤さん (NPO 法人 地域サポートわかさ)

<http://naha-kouminkan.city.naha.okinawa.jp/wak-kou/>

「国道58号線以西ではじめての文化施設」である那覇市若狭公民館。公民館の枠を超えた様々な企画を実施している。8月15日には「アートNPOエイド「表現の回復に向けて」~東日本大震災後の“記録”と“伝える”ということ~」、夏休みには子供たちが参加するアート企画「若狭サファリパーク」や「こどもモノづくり教室」も開催される。ここで働く宮城潤さんは、沖縄のアートシーンをリードしてきた前島アートセンターのメンバーでもあり、8月12日には桜坂劇場で「プロジェクト FUKUSHIMA! イン沖縄」を開催する。

那覇市観光協会(まちまーい) 千住直広さん <http://www.naha-machima-i.com/>

“「まちまーい」とは沖縄の方言で「まちを散策、散歩する」という意味。地元ガイドと那覇のまちを歩いて、今までとは違う角度から那覇を観て楽しんでもらおうと、独自の散歩コースを多数提案している。例えば…「国際通りのワキ道ヨコ道ウラの道」コース、「那覇市内一番の観光スポット「国際通り」から一本裏道に入ってみると、そこは入り組んだすーじぐわー(路地)が走り、巨大墓が並び、木々が生き茂るワンダーランド。表通りからは見えないまちの魅力を見つけに行きましょう。所要時間約1時間」といったコースがある。

15:20～16:30 ディスカッション

居心地のよい場所⇨コミュニティシネマ～桜坂劇場 大解剖！

ライブハウス、カフェ、ショップ、コミュニティカレッジなど、地域コミュニティのアートスペースとして多様な活動を展開するコミュニティシネマ・桜坂劇場。

桜坂劇場を、コンセプト、施設概要、事業、予算、スタッフなど、様々な側面から分析、その魅力の秘密を探ります。

出演:

下地久美子(桜坂劇場)

プレゼンテーションに登場した人々

三浦展(司会、カルチャースタディーズ研究所主宰)

1958年生まれ。新潟県出身。一橋大学卒業後、パルコに入社。マーケティング情報誌『アクロス』の編集に従事、86年編集長。90年三菱総合研究所入社。99年カルチャースタディーズ研究所設立。消費、都市、文化についての研究を行う。著書として、郊外大型店出店とシャッター通り問題を取り上げた『ファスト風土化する日本』、大学と地域のコラボレーションを提案した『商店街再生計画』の他、『吉祥寺スタイル』『高円寺東京新女子街』など。コミュニティ論としては近著『第四の消費 つながりを生み出す社会へ』の他、『家族と幸福の戦後史 郊外の夢と現実』などがある。兄が映画好きだったので、兄が定期購読していた『キネマ旬報』『スクリーン』を小学生時代によく読んでいた。

立木祥一郎(teco LLC 代表)

“美点を支点に、街や社会を動かすチカラへ。”青森を拠点に、クリエイターによる地域活性化、公共施設や商業施設のプロデュースや製品開発・プロダクトデザインを手がけている。多岐にわたるジャンルに関わる市民、行政、企業、学校等をつなげ、誰もが自らの意思とアイデアで参画できるオープンソースによる「市民主導のプロジェクト」が特徴。主なプロジェクトに、廃校になった小学校をアート・スペースにリノベーションし、里山と地域集落の魅力を再発見させた「王余魚沢(かわいざわ)倶楽部」、新進メディアアーティストと全国から集まった若者が、津軽・東北の工芸家たちとともに作りあげる滞在制作のワークショップ「青い森のメディアアートワークショップ」、青森県産材を使用した木製知育玩具の開発「森トイ・プロジェクト」などがある。

■ 16:45～17:30

「シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト」レポート

「シネマエール東北」では、上映者の皆様のご支援を得て、1年間で200回を超える上映会を開催してきました。震災から1年を経た被災地の現在の様子としネマエール東北の活動を、映像を交えて報告します。

報告者:

みやこシネマリーナ [岩手県担当] 櫛桁一則(支配人)

NPO法人20世紀アーカイブ仙台 [宮城県担当] 坂本英紀(理事長)

■ 17:30～18:30

コミュニティシネマのプレゼンテーション

「楽隊のうさぎ 撮影快調！」 浜松シネマイーラ ほか

■ 19:00- レセプション 会場:桜坂劇場 1F 珊瑚座キッチン

9月9日[日] 会場:桜坂劇場

2日目のプログラムは、「デジタル化とコミュニティシネマ」を取り上げます。

今回のシンポジウムは、6月30日のシンポジウム「独立系映画館のデジタル化の現状を知る そして 35ミリ上映環境の確保について考える」に続いて開催するものです。シネマコンプレックスでは、VPFを活用したデジタル化が着々と進行し、独立系劇場もデジタル化を進めつつあります。新作の大半がDCPで配給され、35ミリフィルムでの上映の割合は激減、デジタル素材のみで配給される作品も増えつつあります。デジタル化の進行を止めることはできませんが、一方で、映画の歴史は、上映の歴史でもあります。コミュニティシネマは35ミリでの上映環境を維持すべきなのか。徹底的に討論します。

■ 9:30~12:30

デジタル化と映像文化の未来を考える

—デジタル時代における映像メディア・キュレーター育成のためのワークショップシリーズ

徹底討論 「残す? 残さない? —35ミリ上映環境の確保について考える」

トピックス…

映画館のデジタル化の進行状況(コミュニティシネマ加盟館の状況)/ 公共ホール(シネマテーク)のデジタル化

映画館にとって35ミリ映写機は必要なのか 名画座にとって/ミニシアターにとって/観客にとって

映画専門公共施設(シネマテーク、アーカイブ)の役割

“文化”としての映画上映 35ミリ上映のためのミニネットワークの形成/

上映プリントの確保 / 巡回企画の提案 etc

出演(予定):

内藤篤(シネマヴェーラ渋谷館主/弁護士)

近藤恭代(金沢21世紀美術館)

岡島尚志(東京国立近代美術館フィルムセンター)

志尾睦子(シネマテークたかさき/高崎映画祭) ほか 配給会社等を予定

伊藤重樹(コミュニティシネマセンター)

コーディネーター:岩崎ゆう子(コミュニティシネマセンター)

■ 13:30~16:30

「高校生の映画館 イン 桜坂」

“映画館離れ”が進む高校生を中心とした若い世代に、映画の魅力、映画館(ミニシアターやシネマテーク)という場所の魅力を伝えるためのプログラム、「高校生の映画館」を桜坂劇場で実践します。

地元の高中生100人が桜坂劇場に来館する予定です。上映作品は、高校生が映画館で見た経験がないであろうドキュメンタリー映画。盲目の両親とカルカッタの路地で暮らす3歳の男の子ピラルの日常を映し出し、2009年の山形国際ドキュメンタリー映画祭でコミュニティシネマ賞を受賞した「ピラルの世界」(10月中旬公開)です。この作品を見て、高校生はどのような感想を持つのでしょうか。

上映作品:「ピラルの世界」(2008/ソーラブ・サーランギ監督)

ゲスト … ゲスト:梅佳代(写真家)

高校生にもファンが多い写真家梅佳代さん。梅佳代さんが撮った男子たちの豊かな表情は、「ピラルの世界」のピラルにもどこか通じるものがある。

梅佳代さんは“ピラル”をどんなふうに見るだろう。高校生にとっても、魅力的なお話しになるにちがいない。

梅佳代

1981年 石川県生まれ。日本写真映像専門学校在学中、キャノン写真新世紀にて「男子」(2000年)、「女子中学生」(2011年)がそれぞれ佳作を受賞する。2006年、ファースト写真集『うめめ』を発表し、第32回木村伊兵衛写真賞を受賞。13万部を超えるベストセラーとなっている。日常を独自の視点で切り取る作品が高く評価を受け、国内外の媒体や個展・グループ展などで作品を発表している。その他主な著書に『男子』(2007年)、『じいちゃんさま』(2008年)、『ウメツ』(2010年)などがある。

13:30～15:00 映画上映

15:15～16:30 ゲスト・トーク+高校生を交えたディスカッション

16:30～17:30 **高校生の映画館 イン 桜坂 ディスカッション**

今回の桜坂劇場の試みについて、ヨーロッパシネマからのゲストを交えてディスカッションを行います。

パネリスト

マデリーン・プロスト(ブリストル・ウォーターシェッド) **下地久美子/中江裕司**(桜坂劇場)

土肥悦子(司会/金沢シネモンド代表)

17:45 終了

The National Conference of Community Cinema 2012 in Okinawa

コミュニティシネマ会議 2012 イン 那覇 参加申込書

下記にご記入の上、8月31日(金)までにファクシミリにてご返送ください。
ご出席申し込みに対しては、折り返しメールまたはFAXにて確認書をお送りいたします。

返信先 Fax 番号:03-3461-0760

所属 (ふりがな)
.....

所在地

〒

電話番号

ファックス番号

e-mail アドレス
.....

出席者

[氏名](ふりがな)
.....

[所属部署・職名等]
.....

◎ 参加するものにチェックをしてください。

9月8日(土)

- 14:15~15:15 プレゼンテーション
- 15:20~16:30 ディスカッション
- 16:45~17:30 シネマエール東北レポート
- 17:30~18:30 コミュニティシネマのプレゼンテーション
- 19:00~レセプション

9月9日(日)

- 9:30~12:30 「残す? 残さない? -35ミリ上映環境の確保について考える」
- 13:30~16:30 「高校生の映画館 イン 桜坂劇場」
- 16:30~17:30 高校生のための映画館 ディスカッション